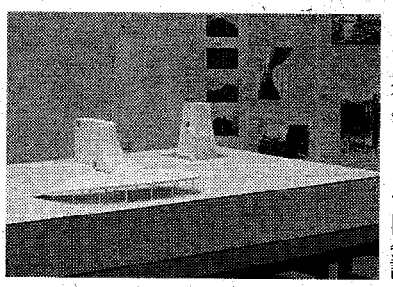
学生卒業設計コンクール

西口さん（神戸芸工大）が最優秀

JIA近畿

協賛＝総合資格

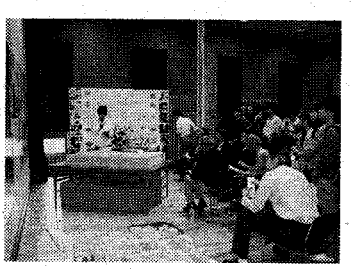
吉村委員長から賞状を受け取る西口さん㊧と作品㊦



日本建築家協会近畿支部と都市」が最優秀賞に選ばれた。優秀賞2位には西原将さん（京都大学）の「MATERIALITY ENGINE」、同3位には中川洋輔さん（立命館大学）の「Loosenes Network・ネットワーク的社会に向けた国会議事堂」を選出した。

（JIA近畿、小島孜支部長）は19日、「2012年学生卒業設計コンクール」（協賛＝総合資格）の最終公開審査を大阪市中央区の近畿大学会館で行い、西口冬悟さん（神戸芸術工科大学）の作品「6つの家と私

同コンクールは、建築家を目指して大学、短大、高等専門学校、専門学校、職業訓練校学業で学び、努力してきた学生が取り組んだ卒業設計作品を評価する機会を提供し、今後の活躍を期待するために企画。11年度卒業者が対象となった今回は、近畿圏の24大学校から42作品が寄せられた。



最終公開審査の会場

審査委員長の吉村篤一氏（建築環境研究所）、審査委員の芦澤竜一氏（芦澤竜一建築設計事務所）、江副敏史氏（日建設計）、寺岡宏治氏（安井建築設計事務所）、森下修氏（森下建築総研）、矢田朝士氏（ATELIER―ASH）が4月の1次審査で8作品を選出。

19日の最終選考では、8人が模型やパネルを前にそれぞれの作品コンセプトなどを説明、吉村、江副、寺岡、森下、矢田の5審査委員の質問に答えた。

1回目の投票では5審査委員が持ち点3ポイントを3作品に投じたところ、西口さんが4票を獲得し、佐々木惇子さん（立命館大学）の「ひなのさと」や高橋智也さん（大阪芸術大学）の「死への階梯の途上にて」、中川さんの作品が3票を、西原さんの作品が2票を得た。

上位5作品が小差で並んだことから、作品の優秀順で3点、2点、1点を投じる方式に変更した。その結果、西口さんがトップの9点を得て最優秀賞に決定。7点の西原さん、5点の中川さんが続いた。4点の高橋さん、3点の佐々木さん、2点の家入杏さん（京都工芸繊維大学）の「或地の解」は佳作になった。

西口さんの作品は、8歳から20歳にかけて家庭の事情により、熊本市内で六つもの家を転々とした体験と「その時に過ごした周囲の環境を建築的なかたちに起こした」プラン。「私が身をゆだねた場所」「帰るべき場所」を考え、倉庫や駐車場、ベランダ、勉強部屋、個室、庭を配置した。

講評では、この作品の社会性について審査委員間でも議論があり「個人的すぎる」との意見もあったが「オブジェとして優れている」「個人的体験から来る空間をアーティスティックにまとめている」などと高く評価する意見も出た。

このほか全体的な講評として「他人の表現や論理を積み重ねて、自分の手法を載せた、自分が何をしたいのかが分からない作品がある」との指摘もあった。

表彰後、西口さんは「自己的な空間を使ったが、社会的だと思ってはいます。審査で『社会的ではない』『社会的だ』と考えていただいたのはよかった」と語った。吉村審査委員長は「いずれの発表者も自分の考えをまじめにアピールしていて評価できる。また審査委員もそれぞれの特徴が出て、簡単に決まらなかったのもよかった」と振り返った。近畿支部入賞者はJIA全国学生卒業設計コンクール（6～7月開催）に参加することになる。